



アリの巣は、雨が降っても水が入らないの

土は、水を吸いこむ

雨が降ると、水をあまり吸わない、コンクリートやほそ道路の上は、すぐ、水がたまってきます。でも、土の上は、すぐ、雨水が土の中に吸いこまれて、土の色が変わるくらいで、雨の降ったあともわからないほどです。

アリの巣は、土の中にできていて、周りにはみな土です。ですから、少しぐらいの雨が巣の中に流れ込んでも、みんな周りの土にすぐ吸いこまれてしまって、巣に水がたまることはありません。アリがトンネルをほるときは、ほった土を口にくわえて、外に運び出します。巣の入り口には、そのトンネルの中から運んだ土が、積み上がっています。激しい雨が降ったときは、この巣の入り口がこわれて、ちょうど、どろがあなにふたをしてしまうような形になり、雨が流れこまなくなります。

大事なものは、地面の下の深い所に

よく見るクロオオアリの巣は、地面の30センチメートルぐらいの所に、トンネルとへやが広がっています。草の実を集めることで知られている、クロナガアリの巣のいちばん下は、地下4～5メートルにもなります。たいてい、大切な女王アリのへやとか、卵や幼虫のへやなどは、巣の下の方に作ってあります。地面の下の深い所になるほど、地上の温度変化も感じなくなり、一年中暑くもなく寒くもない、気持ちのよい温度ですごせます。

(監修・中山 周平)

